

# 三ツ山の鐘

## 80 号 記念号

発行日  
平成 29 年 7 月  
発行所  
恵の丘  
長崎原爆ホーム本館  
題字 シスター上田

昭和四十五年四月一日に原爆ホームに開設され、その一五年後に三ツ山の鐘創刊号が発行されました。

創設者シスター江角のご帰天の翌年、ローマの教皇様ヨハネ・パウロ二世が来訪され、被爆者に向かつて「皆さんは生きた平和アピール・・・皆さんの生き様そのものが生きたアピール・・・」との力強いメッセージを頂きました。入居者は辛く悲しい体験を「何かの役にたつのなら」とはつきりとした意思をもって語り始めました。三ツ山の鐘の原点では、

【原爆ホームの一員として、何かをしなければと、盡力を私たちがですが、それぞれの被爆体験を後世の人々に伝え、恒久平和を願うと共に、まが、互いの和を深め、それを広めるために、園内新聞の発刊を考えました。】

とあり、それから三十三年が経ち、第八十号記念号として、創刊号の形を再現して、この二ページに特集し、三ツ山の鐘を振り返りたいと思います。

平成四年一月一日発行 第二十号



ホームはいろんな方のご支援をいただき、このマイクロバスご寄贈で、利用者といろんな所へ出かけて行きました。

昭和六十年四月一日発行  
三ツ山の鐘創刊号

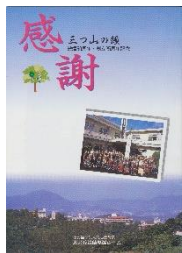


誌面は、モノクロでクラブ紹介が主で、農園・楽器・陶器・手芸・書道とたくさんさんのクラブがあります。当時は、職員だけでなく、利用者にも広報委員がいて、投稿記事を募集し、みんな協力して作成しています。



平成元年  
八月九日発行  
第十五号

【いつだって心が通い合う充実のホーム・ステージ】  
この言葉のように、充実した笑顔が見られます。



被爆五十周年・創立二十五周年の記念として、三ツ山の鐘記念号を発行

平成七年七月二十六日

天皇・皇后両陛下下行幸啓奉迎

「感謝」六・七頁より

平成七年八月九日  
村山富市内閣総理大臣

「感謝」十頁より



【村山富市内閣総理大臣は、被爆五十周年の節目に平和の決意を新たにしたいといきさつされました。】

平成二十六年十一月 第七十二号



十月十一日、二度目となる天皇皇后両陛下下行幸啓。「長崎がんばらんば国体」の開会式ご出席の前日にご訪問くださり、緊張の中にも感動の時となりました。

戦後五十年慰霊の旅の最初の地、長崎をご訪問の折、原爆ホームへご訪問下さいました。

平成十二年一月三十一日 第三十四号

江角ヤス生誕百年



「おいしい空気と緑と太陽をいっぱいあげて緑と花いっぱいのホームにしたいのです」  
シスター江角の言葉

【この機会に創立者の福祉の心を思い起こしながら、現状を見つめ直す年としました。】  
平成十一年、創立者である江角ヤスの生誕百年記念の年、福祉法人合同で聖母行列や朗読劇などの記念行事を行いました。



平成十二年八月一日 第三十五号 第三十五号掲載

被爆五十五年記念  
原爆体験記第一集  
から十四集をまとめ  
た第十五集を発売



【戦争は悪情である。勝つ為には手段を選ばない。今、世界の核保有国が蓄積している核兵器は、地球を何十回でも壊滅させる程あると言う、恐ろしい話である。之を使う様な事態になったら勝者も敗者もない。人が住めない世界となるのである。人間の愚かさで世界の終末を早めてはならない。  
原爆の恐ろしさを身を以て体験した我々は生き証人としてその恐ろしさ、悪残さを語り継ぎ、絶えず平和の責を訴え、世界平和の為に祈らねばならないと思う。】

平成十八年 三月三十一日 第四十六号

平和への想いを新たに



この年に被爆六十周年を迎え、その取り組みの一つとして平和のモニュメント「平和の道標」を建立。

【昏迷を極める世にあって、被爆者の苦しみと平和への切なる願いを忘れることなく、唯一の目的とする「平和」と導かれるようにとの想いが込められ、平和の象徴である対の鳩が永遠の光(平和・愛)へと向かって羽ばたく姿を添えている】

平成二十八年三月 第七十六号

被爆七十周年 振り返り



あとがき  
恵の丘にはシスター石川和子作詞・作曲の『恵の丘の歌』があります。  
『恵の丘の歌』  
一、緑も深く繁るこの森 原爆の思いも新たなここ恵の丘 燃える町をこえて舞い来る焦げし紙片 殉難告げたり松の梢に  
二、世は移るとも 君が名を知る 人々は世々に継ぎて賛えん勲を 栄光の御国より みそなわせ乙女ら かの日の犠牲はここに花咲けり  
この詩の中には、はっきりとした言葉で、恵の丘から平和を発信する深い意味を知る事ができます。  
この歌のように、三ツ山の鐘にも、被爆体験を広く後世に伝える平和活動と、互いの和を深め、開かれたホーム作りの一端を担い、平和を発信していく役割があります。

平成十六年三月三十一日 第四十二号

風船バレーボール大会初優勝!



利用者の方々は力強く頑張っています!  
今年も大健闘しました。来年に向けて気合い十分です!

平成二十二年十一月 第六十号

風船バレーボール大会 四連覇!



勝利の笑顔

平成二十九年三月 第七十九号

平成二十九年三月 第七十九号  
創刊号から 早や三十三年経過 今も利用者の 笑顔を大切に

に



利用者、職員といっしょに四十年を振り返り、五十周年に向けて歩み出しました。



平成二十三年三月 第六十一号  
ホーム創設四十周年



この年、三月十一日、東日本大震災が起き、募金を呼びかけ、利用者の想いを形にと日本団結地図を作成。

平成二十三年七月 第六十二号

被爆七十年の取り組みとして、講演、映画上映、展示、原爆体験記「青空」記念号発行といろんな取り組みを行いました。被爆七十年という節目の年に改めて、原爆について考え、平和への祈りを捧げました。



被爆五十年を過ぎた頃から高齢化の影響でしょうか、三ツ山の鐘の作成に参加していた利用者もその様子が見えなくなってきました。  
超高齢化社会と言われる現在、ホームでも被爆体験を話せる方が少なくなり、体験を伝えていくことが難しくなりました。しかし、これからも三ツ山の鐘は、恵の丘の歌を歌い継いでいくと共に、この先も絶えることなく発行し続け、被爆体験をされた利用者の方々がいままで安心して、生き生きと過ごしている姿を残していきたいと思えます。そして、原爆のことを後世に伝える活動を続け、微力を結集して、三ツ山の「鐘」で平和の「鐘」を鳴らし続けてまいります。